



昨年、50回記念大会として開催した Inter BEE 2014の会場風景。

11/18(水)~20(金) 開催 Inter BEE 2015 「ここに注目」

日本最大の放送・メディアのコンベンション「Inter BEE 2015（第51回）2015年国際放送機器展」が11月18日（水）～20日（金）の3日間、幕張メッセで開催される。今年は4K/8K、放送通信連携、OTTの本格展開などが大きなテーマになりそうだ。セミナーとデモの見どころ、本誌注目の展示ブースを紹介する。（取材・文：渡辺 元・本誌編集部）

第1の見どころ 「4K/8Kの進捗を確認」

Inter BEE 2015の見どころは大きく3つある。第1の見どころは、4K/8K放送のロードマップの進捗を確認できること。今年4月に「4K・8Kに関するフォローアップ会合 第二次中間報告」がまとめられたことを受けて、基調講演1「4K・8Kロードマップ2015 今後の事業展

望」では、各事業者が第二次中間報告の内容を踏まえた今後の事業展望を紹介する。講演を行うのは、総務省、NHK、スカパー JSAT、NTTぷらら、ジュビターテレコム、次世代放送推進フォーラム（NexTV-F）だ。

第二次中間報告の中では、「2020年以降」もキーワードになっている。元橋圭哉 NexTV-F 事務局長の講演では、2020年以降の展望について説明する。

各事業者がロードマップを受けてどのように4K/8Kの事業を進めていくかという情報を並べて確認できる機会は少ない。基調講演1はその役割を担っている。

Inter BEE 2015を運営する一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会の石崎芳典 プロジェクトマネージャーは、「現在、基調講演1の聴講予約の受付をスタートしていますが、多数の申し込みが寄せられています。各事業者にはサービスが今後どのように進んでいくのか、どのような技術的な課題があり、それをクリアする取り組みが行われているのか、ということを紹介していただきます」と説明する。

展示会では各メーカーの4K/8K映像制作機器が一堂に会する。

第2の見どころ 「放送通信連携の最先端」

第2の見どころは、テレビ放送が今後どう変わっていくか、急速に進む放送通信連携の最先端から見られること。今秋Netflixが国内でサービスを始め、テレビ局はネットでの動画配信サービスを積極的に展開している。10月下旬には民放キー局5局がTVerのサービスを開始する。そのような中で、各事業者は放送